



隠れた素敵な国ラオス

岡山県立岡山城東高等学校 3年 池内 瑛美

この約一週間の研修でラオス人の素晴らしさに気づくことができた。ラオスではこんにちはこの意味で「サバイディー」という言葉がある。町行く人誰に挨拶をしても、「サバイディー」と笑顔で挨拶を返してくれる。こちらが微笑むと微笑み返してくれる。そんな風に挨拶が当たり前のように交わされる素敵な国だ。そして、ラオスは後開発途上国と呼ばれる国だが、街中で物乞いをしている人を見かけない。ラオスでは、両親を失った子供がいたら、施設にその子を預けるのではなく地域みんなでその子を育てていこうという考えを持っている。毎朝行われる托鉢では、お坊さんが市民から受け取ったお供え物がいっぱいになると、道においてあるかごに入れる。そして、托鉢が終わるとそのかごの中から食べ物を、その日の食べ物に困っている人が貰っていく。ラオスではそんな素敵な助け合いのシステムが自然と確立している。ラオス人は日本や他の先進国、開発途上国が持っていない、忘れかけた、人として大切なものを持っているように感じた。これからラオスが経済成長をして行く中で、この温かい素敵な心を忘れてほしくない。他の開発途上国のように急激に経済発展していくのではなく、ラオスらしい、ラオスなりの経済発展をしていってほしいと強く感じた。そして、ラオスという国を世界中の人に知ってもらい、訪れてほしいと心から思った。